

## 1930年代の世界

[1]年アメリカ、ウォール街の株価大暴落をきっかけに発生した[2]は世界にひろがり大きな衝撃を与えた。アメリカでは退役軍人のデモが発生し、軍隊が出動するといった事態も発生した。

こうしたなか、アメリカの新大統領となったのが民主党の[3]である。彼は[3]の計画経済をまねた[4]政策を進め、[5]による失業者救済を進めた。しかし、その政策はうまくいかず、各地で[6]が頻発、農村でも離農者があいついだ。

また、日本では1931年[7]をおこし、翌32年には[8]を建国させたが、[9]はこの行為を[10]とみなしたため、これから脱退し、世界から[11]していった。

世界のこうした動きにたいし、大恐慌の影響を受けなかったのは[12]である。イギリスの劇作家バーナード＝ショウなどは資本主義国もソ連のシステムを導入すべきなどとしていた。しかしその背景には、反体制派の人々などを[13]におくり労働力として用いたり、処刑するという事態がかくれていた。

大恐慌の影響がもっとも大きかったのは[14]であった。これにたいしドイツ民族を救うと主張し、台頭してきたのが[15]ひきいる[16]党であった。

彼は1923年、[17]の町で一揆を起こしたが失敗に終わり、その後、彼は[18]で政権の座を奪おうと考えようになった。彼の選挙戦は、シンボルマークとして反ユダヤ主義をしめす[19]をもちいたり、大量の[20]や[21]、[22]を駆使した遊説、あらたに広まってきた[23]などを用いた。

彼の演説は、ドイツを[24]のように描くことで、人々の支持を得たし、彼が組織した私設の軍隊である[25]の一派乱れぬ規律ある行動は若者に強くアピールした。

この時期、世界で[26]勢力が台頭し始めていた。イタリアでは第一次大戦で戦勝国であるにもかかわらず、[27]がえられなかった不満を背景に[28]率いる[29]党が勢力を伸ばし、独裁政権をうちたてていた。

また、[30]やフランス、アメリカでもファシズム組織が台頭、世界は警戒感を強めてきた。

1932年政権の座に着いた、ヒトラーはただちに[31]対策として公共事業をおしすすめた。[32]アウトバーンの建設などが有名であり、その結果、

600万人いた失業者は激減、このような事態は[33]とよばれた。こうしたなか開催されたナチス党大会には1週間で100万人が参加し、ナチスによる「千年王国」の成立と宣伝されたが、その一方で、すべての[34]は解散させられた。

[35]への弾圧も本格化、突撃隊や[36]によるユダヤ人襲撃や自由主義・社会主義およびユダヤ人にかかわる[37]の焼却などがおこなわれ、[38]がつくられ、ユダヤ人や[39]が収容された。

ヒトラーは[40]こそがもっとも優れた民族であると考え、その純血をまもるべきだと考え、そしてドイツ人の対局にいる劣った民族が[41]人であると考えていた。

このころ、多くのドイツ人は「[42]はあまり価値のある概念ではない」と考え、ヒトラーが[43]を解決した実績こそがすばらしいと考えていた。

ヒトラーはしだいにドイツ民族の生存権を守るためには[44]をはじめとする[45]に領土を拡大すべきだ首長をし始め、1935年、[44]を宣言し、[45]体制に挑戦する姿勢を明らかにし始めた。

翌1936年、ついでヒトラーは[46]とされていたラインラントへの進駐を行い、既成事実化していった。

ちょうどそのころ、[47]の共和派政府に対し、フヒトラーは、この戦争を48として利用、航空機部隊による都市への無差別爆撃をおこなった。とくに[49]への爆撃は[50]の絵に記されたことでも有名である。

つづいてヒトラーは彼の出身地である[51]の併合に向けた。街頭で混乱をおこし、それに乗じて勢力を拡大、[52]年3月、[53]や[54]を口実にこの国を併合した。

かれが次にめざしたのは[55]であった。彼は[56]地方でのドイツ民族の[57]を口実に併合を要求したが、この国は強くこれを拒否した。

こうした緊張の中で開催されたのが[58]会議である。この会議でヒトラーは「これが最後の要求である」と明言し、[59]首相のネヴィル＝チェンバレンはこれを受け入れ、ドイツの[59]地方併合を認めた。しかし半年後、ヒトラーは他の[60]領土にも侵攻、これを分割するにいたった。

こうしてチェコスロバキアを獲得したヒトラーは次の目標を[61]と定めた。

そして[62]年 月 日、ヒトラーはこの国への侵攻を開始し、ついに[63]が発生することになる。